

事例
65広島県
淡路電気工事株式会社

電気・給排水・空調設備工事 施工管理

所在地 広島県広島市
創業年 1950年
従業員数 42名常勤
雇用

事業承継を前提に新社長の右腕として社員の自主性を引き出しながら企業風土改革を推進

取組ポイント

1. トップダウンの古い企業体質を変革
2. 全社員を巻き込むマネジメント改革
3. 社内コミュニケーションの活性化と社員の成長



STEP 1 抽出された経営課題



～トップダウンの古い企業体質を変革～

父である前社長から当社へ呼び戻されたのが約10年前。全てにおいてトップダウンのシステムの中で、社長と50人の社員という関係でした。そこには会社としての一体感が無く、組織として同じ方向を向いて頑張っていこうという風土も感じられませんでした。そういう危機感の中で、やがて近づく事業承継に向けて、右腕となる人材の力を借りて企業風土の改革に取り組むことが急務と考えました。

STEP 2 プロ人材に与えられたミッション



～全社員を巻き込むマネジメント改革～

強力なトップダウンによる古い企業体質からの脱却のために、社員に対して支援型マネジメントで向き合い、組織による会社運営への移行を実現できるマネジメントスキルを持つことを人材要件としました。実際にマッチングした有賀氏は、大手企業の広島支店長として支店メンバーの意見をまとめ、中国地方・九州・沖縄における営業活動を統括した実績があり、そうしたスキルに加え何よりその人柄が魅力的で、持ち前のヒューマンスキルを最大限発揮して新たなマネジメントへの改革を実現してほしいと考えました。

STEP 3 プロ人材がもたらした効果



～社内コミュニケーションの活性化と社員の成長～

今まで不定期であった部門を超えたミーティングを毎朝定例として、有賀氏中心に主要メンバーで情報共有に努めるようになったことでコミュニケーションの取り方が変わりました。「ミーティングは市場（いちば）と同じ」という位置づけで、必要な情報を手に入れても提供してもいいという考え方で、「朝市ミーティング」と呼んでいます。このミーティングが、社員一人ひとりが考え、発言する原点となっていると思います。



企業からの声 代表取締役社長 淡路 孝江 氏

今年創業70周年を迎えますが、見据えるのは100年目の優良企業です。決して売上ばかりではない、みんなが幸せである会社を目指しています。有賀氏は一人ひとりの社員とのストレートな対話がとても上手で、平成30年9月からは常務取締役として経営から社員教育まで多岐に渡る業務に取り組んでいただいています。会社の風土改革というのは大変で息の長いブレない取組が必要だと思っています。現状、三歩進んで二歩下がることの繰り返しではありますが、幹部の考え方が揃ってきて組織になりつつあるなど実感しているところです。また、頑張ってくれている社員にスポットを当てた社員表彰制度をスタートさせました。この制度で社員の成長と会社の風土改革を後押ししていきたいと考えています。今のいい流れを作っていたいただいた有賀氏と入社のかっかけを作っていたいただいたプロフェッショナル人材戦略拠点には大変感謝しています。



入社時のプロフィール

有賀 一夫 氏

役職名 : 統括マネージャー

年齢 : 56歳

家族構成 : 妻、子供3人

主な経歴 : 東証一部上場 自動車部品サプライヤーの
広島支店長

出身地 : 静岡県 前居住地 : 広島県

還流ルート : その他

入社した経緯

前職では転職・単身赴任を繰り返し、家族に大変な苦勞をかけてきました。役職定年が目前に迫っており、これからは家族のためにも、そしてこれまでのキャリアの中でも一番自分に影響を与えてくれた広島県に定住し、恩返ししたいと考えました。そこで出会った当社の「自分が成長することが企業の成長につながる」というビジョンに共鳴し、人材育成でお役に立ちたいと考えました。

入社してから携わった業務

新社長と会社の進むべき方向について議論を深める中で、会社の風土改革を進めていく土壌づくりから取組みました。具体的には、規約・ルール・基準の明文化、各部門の機能・役割・責任の明確化、新人事制度（行動評価）導入、営業・経理一貫システム導入、リモートワーク環境整備といったいわば会社の基礎業務を整備してきました。その中で社員一人ひとりのコミュニケーションを大切にしてきました。

当社での働きがい

社員一人ひとりの人間的な成長があつての会社の風土改革だと認識しており、私の価値観・経験・スキルを管理職層だけでなく若年層にも伝えていきたいと常に考えています。当社では、日常的に社長と二人三脚で社員の人間的な成長のサポートに携わっており、役割の大きさ・深さに大きな遣り甲斐を感じています。引き続き社員の成長と会社の成長に尽力していきたいと考えています。